

【学びをもって進みましょう】

桜の開花宣言を聞いた途端に寒の戻りとなりましたが、皆さん体調を崩していませんか。お仕事でもご家庭でも年度末の忙しさに追われていることと思います。

今回、合格された方おめでとうございます。「やっとスタートラインに立てた」との報告もありました。まずは、登録申請の手続きをお忘れなく。そして、日本社会福祉士会に入会して多くの仲間と繋がってください。

残念ながら、今回は桜が咲かなかった方からも、来年の試験にむけての決意表明がありました。ともに前に進みましょう。養成所は皆さんを応援し続けます。

今回の国家試験の結果は、合格率 31.1%、合格点は 105 点でした。発表までの 1 ヶ月余り、落ち着かない日々を過ごされたのではないかと思います。養成所にも何人かの方から連絡がありました。100 点を超えひと安心したものの、多くのネット情報に触れ心配な日々に戻されている.....そのようなお話もありました。

非常に高い合格点となった今回の合格基準については、日本ソーシャルワーク教育学校連盟（ソ教連）が会長談話を発表しています（3月22日）。

今回の結果如何に関わらず皆さんのソーシャルワークの学びは続きます。残念ながら、桜が咲かなかった方も、桜が咲いた方も、この2年間の学びのアップデートを続けていきましょう。日々の暮らしや仕事、国内外の出来事を、学んできた視点で読み解き、ご自身の行動に落とし込んでみましょう。

社会福祉士の学びは知識だけではありません。私たちは「ソーシャルワークとは」を常に自問しながら前に進んでいきたいと思うのです。この受験対策講座も今回が最終号となります。長い間お読みいただきありがとうございました。皆様、どうかお元気でご活躍をお祈り申し上げます。

お知らせ

・令和3年度修了者（第34回国家試験受験対象者）に国家試験等に関するアンケートを発送しております。アンケート集計結果は、厚生労働省への報告が義務付けられているため、必ずご回答及びご返送をお願いいたします。

※ご返送のない方には、直接お電話等で伺う場合があることをご了承ください。

・33期生の方は、今後も事務連絡等を配信しますので、再登録の必要はありません。33期以外の方で引き続き、配信を希望される方は、ホームページから改めてご登録ください。

・次年度以降、国家試験の合否については、ご本人からの報告がない限り、本養成所で把握することができません。国家試験に合格された方は、必ず養成所までご一報ください。

■Yoseijo Info

・(32期生) 住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。

・(33期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。

本養成所からの申請書類を発行するには、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」、「スクーリング代替授業の履修」、「授業料の納入」が必須となります。

・レポート評価票の課題及び課題番号の記入について、未記入や番号違いに注意してください。

また、必ずレポート評価票と原稿用紙はホチキスで留めてください。

・レポート評価票の科目と原稿用紙の科目の付け間違いに注意してください。

受付できない場合があります。

・レポート提出は、郵便事故や封筒の破損を避けるため、極力、郵便局窓口からの提出を推奨しています。

また、必ずコピー（控え）をとってください。

・参考文献及び引用文献の記入について、文献（URL）名のみ等、情報が不足しているレポートが散見されます。

受講の手引き P18-19 の「(3) 文章作法とルール」や、P22-24 の「(5) 参考文献・引用文献の表記方法」を確認のう

え必要事項をすべて記入してください。

■Test Info

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第 34 回国家試験合格発表

詳しくはこちら→<http://www.sssc.or.jp/index.html>

◇概要◇

受験者数 34,563 人

合格者数 10,742 人

合格率 31.1 %

さらに詳しくはこちら（厚生労働省 HP）→https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24089.html

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟より国家試験過去問題等のご案内です。

詳しくはこちら→<http://jaswe.jp/>

■Plus Info

その他の情報をお届けします

- ・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/>

■Global Info

桜が咲き始め、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が全面解除されたものの、1 か月以上に及ぶロシアによるウクライナへの軍事侵攻のニュースに心は晴れません。

私たちは、「ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問」であることを学びました。世界のソーシャルワーカー一人一人の働きかけが求められています。

2月24日、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）は「ウクライナにおける軍事侵略について」という声明を出し、3月2日、日本ソーシャルワーカー連盟（JFSW）はこれを支持する声明を出し、即時停戦とウクライナ国民の生活の早急な回復を求めました。日本ソーシャルワーカー連盟はIFSWの地域組織であるIFSWヨーロッパへの、日本ソーシャルワーク教育学校連盟（ソ教連）はウクライナ国内で人道支援を行っている2団体への義援金募集を始めています。

○詳しくはこちら

IFSW と JFSW の声明→<http://jfsw.org/2022/03/02/2440/>

JFSW の義援金募集→<http://jfsw.org/2022/03/10/2449/>

ソ教連の義援金募集→<http://www.jaswe.jp/>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus